

カルメル

霊性センターニュース



フラ・アンジェリコ画 「聖母の戴冠」

2021年5月

375号

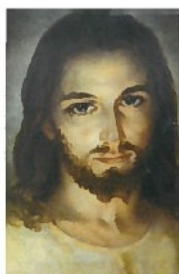
「友情共同体」としての教会

(使徒的勧告『キリストは生きている』から)

友情はとても大切なものなので、イエスはご自分を友となさるのです。「もはや、わたしはあなたがたを僕とは呼ばない。……わたしはあなたがたを友と呼ぶ」(ヨハネ 15・15)。主から与えられた恵みによって、まことにイエスの友になることにおいて、わたしたちは高くあげられたのです。わたしたちに注いでくださったのと同じ愛をもって、わたしたちはこのかたを愛し、その方の愛を他者にまで広げることができます。それは、彼らもまた、イエス・キリストによって築かれる友情共同体の中に居場所を見つけられるはずだとの希望をもってのことです。(153)

友と語って、私たちは心の奥に秘めたことを分かち合います。イエスともまた、語り合えます。祈りは、挑戦であり冒険なのです！祈りによってわたしたちは、イエスをもっとよく知り、イエスの深層へと分け入り、結びつきをさらに強められるようになります。祈りによってわたしたちは、自分に起きたことをすべてイエスに伝え、その腕に安心して包まれるとともに、イエスがわたしたちにご自分のいのちを注いでくださる、親密で愛のある尊い時間を得ることができます。「あなたのなさりたいように」と祈ってあのかたの場所を用意したなら、「あの方は行動でき、立ち入ることができ、勝利を収めることができます」。(155)

そうして、あのかたとの途切れない結びつきを生きられるようになります。それは、他の人と味わういかなるものにも勝るものです。「生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです」(ガラテヤ 2・20)。(156)



目次

教会からの巻頭の言葉	1
目次	2
「霊性シンポジウム」開催報告	3
イエスの聖テレジア教会博士宣言 50 年への	
教皇メッセージ	4
心の泉	7
カルメル会の企画案内	29
東京	30
京都	34
キリスト教放送局 FEBC のご案内	36
諸所の企画案内	37
郵送お申込みのご案内	42
あとがき	43

イエズス会霊性センター「せせらぎ」主催

霊性シンポジウム「現代に求められる黙想」

—イエズス会の霊性、カルメル会の霊性から—

報 告

2021年4月17日(土)、18日(日) イエズス会無原罪聖母修道院を会場に、イエズス会霊性センター「せせらぎ」(代表 柳田敏洋神父)の主催で、霊性シンポジウムが行われました。直接参加20名、オンライン参加150名の方々のご参加をいただいたの開催となりました。このシンポジウムの目的は「現代の人々の魂の渇きによりふさわしく応えるためにどのような黙想や観想の指導が求められているのか。それぞれの霊性や方法から互いに学び合い、人々に応える道を探る」ものでした。

柳田敏洋神父様 小暮康久神父様の司会で進められ、五人の方々の講演を軸にシンポジウムは進行しました。

講演の内容は次のようでした。

1. 「新しい霊操訳のねらい」：川中仁神父 (イエズス会、上智大学神学部長)
2. 「私の霊操指導法」：プラチド・イバニエス神父 (イエズス会、霊操指導者)
3. 「イエスとの友情を生きる霊性」：中川博道神父 (カルメル会)
4. 「霊操を助けるキリスト教的ヴィパッサナー瞑想」：柳田敏洋神父
(イエズス会、霊性センター「せせらぎ」所長)
5. 「『祈りの道』の同伴者として一霊的生活を深める「教育」」：片山はるひ教授
(ノートルダム・ド・ヴィ会員、上智大学神学部教授)

約一時間の講演の後、会場・オンラインでご参加のみなさんとの三十分ほどの対話が続きました。最後に両日の演者による「パネルディスカッション」が行われました。

講演者はじめご参加くださった皆さんから、それぞれの霊性とその経験からお互いに学び、豊かな気づきをいただいた感銘と、混迷する時代の中で、お互いに協力し合って主イエスと共に歩む道を探ることの必要が聞かれました。今後もこうしたシンポジウムを、和を広げながら継続していくことを確認して散会しました。(文責：中川博道)

イエスの聖テレジア教会博士宣言 50 年に、教皇メッセージ

教皇フランシスコは、イエスの聖テレジアの教会博士宣言から 50 年を記念する会議にメッセージをおくられた。

16 世紀のスペインの偉大な神秘家、カルメル会の改革者である、イエスの聖テレジア (アヴィラの聖テレジア・1515-1582) は、1970 年、教皇パウロ 6 世によって「教会博士」とされた。今年 4 月 12 日から 15 日、スペインのアヴィラ・カトリック大学で聖テレジアの教会博士宣言より 50 年を記念し、国際会議が開催された。

教皇はこれを機会に、会議参加者にビデオを通し、次のようなメッセージを寄せられた。

イエスの聖テレジア、教会博士宣言 50 周年を記念する国際会議にご出席の皆さんに挨拶をおくります。

この国際会議のテーマに、「卓越した女性」というタイトルが選ばれました。これは、かつて、聖テレジアの教会博士宣言において、時の教皇、聖パウロ 6 世が使った言葉です。確かに、聖テレジアは、あらゆる面で卓越した女性でした。しかし、忘れてはならないのは、この女性のすべての卓越性の秘訣は、彼女にとって最も重要であった一つの出来事に由来しているということです。すなわち、聖テレジアの優れた点のすべては、彼女が最も大切にしていたイエス・キリストとの親しい出会いの結果であったということです。

聖テレジアにとって、キリストとの出会いがすべてでした。彼女は、このキリストとの一致を、祈りによって忠実に保ち続けました。イエスの聖テレジアは、確かに優れた女性でした。なぜなら、何よりもまず彼女は聖なる人でした。聖霊に対して忠実であった彼女は、キリストに一致し、神の愛に絶えず燃えていました。

わたしたちは、変化の時代を生きているのではなく、いわば、時代の変革を体験しています。こうした意味で、聖テレジアが生きた 16 世紀の世界と、わたしたちが生きている今日の世界は良く似ています。現代に生きるわたしたちも、聖女のように聖霊の働きに忠実に従うことによって、聖霊の力がこの世界を変えていくことができるよう、協力する必要があるのです。

第二バチカン公会議が強調した「すべての人が聖性に招かれている」という真理を思い起こす必要があります。特別な人だけが聖性に招かれているのではなく、すべてのキリスト者が、洗礼の秘跡によって、キリストのようになるべく使命を受けています。

聖テレジアは、祈りとは、特別なことや神秘的なことを体験するためではなく、ひたすらキリストと一致するためにあると教えています。そして、このキリストとの一致の真のしるしは、愛徳の業であるとも言っています。聖テレジアはこの真理を確信し、靈的な娘たちであったカルメル会修道女らにいつもこう教えていました。祈りにおける神への献身、キリストとの一致は、必ず愛の業として外に現れるものであると。

祈りにおいて神と一致すればするほど、愛の行いを通して、外に向かっていくものです。自分自身に閉じこもってしまうのは、決して神との一致に至っていないことのしるしです。

聖テレジアは、いつも修道女たちに言っていました。主は業を、行いを、望まれます。祈りとは、神秘的なことや不思議な奇跡を行うことではありません。それは、神のご意思との真の一致にあるのです。聖テレジアは、代表的な著作「靈魂の城」の中で、人の完徳の度合いは、その人の愛徳の度合いに比例すると言っています。

聖テレジアは、神との一致に至る道を、祈りを通して神と深く一致する道を教えました。この道をまっすぐに歩むために、己の真の姿を認めることの必要性も聖女は強調しています。神の御前で、自分の本当の姿を知り、認めることが必要です。聖女は、あの最も高い聖性の段階に達した時でさえ、自分は神の御前であわれな罪びとであると自称していました。自分の小ささ、惨めさを自覚すればするほど、神の憐れみの美しさ、大きさに眩惑されるのでした。

神の憐れみは、すべての人を受け入れ、すべての人にその友情を提供します。聖女は言います。神の憐れみは、わたしたちが思いつく限りの悪よりも大きいと。彼女はまたこうも言っています。「わたしの方が先に、主に背くことに疲れてしまいます。神は決して、わたしたちを赦すことにお疲れになりません」。「神は与えることに疲れを知らず、その憐れみは無限です」。

そして、聖女は、詩編第 89 番の言葉を自分自身のものとし、繰り返し唱えていました。「主の慈しみをとこしえにわたしは歌います」。

祈りによって、聖テレジアは創造性に富んだ、優れた改革者となりました。祈りを通して、希望に道が開かれます。わたしたちも教会博士聖テレジアのように、この困難に満ちた時代を生きていきましょう。聖女は言っていました。このような時だからこそ、真に忠実な神の友人たちが必要とされるのです。

困難な時に陥りやすい誘惑、それは悲観主義に陥ることです。狭い自分の世界に閉じこもることなく、開かれた神の世界に身を投じましょう。神はいつもわたしたちと共におられます。

最後に、イエスの聖テレジアのこの素晴らしい有名な祈りを、しばしば唱えるよう皆さんに勧めたいと思います。

「何もあなたを乱すことのないように
何もあなたを驚かすことがないように
すべては過ぎ去ります
ただ神のみが不変です
忍耐はすべてを獲得します
神を持つ者には何も欠けるものではありません
神だけで充分です」。

聖母マリアと聖ヨセフがいつも皆さんと共にありますように。

心の泉



宇治カルメル会修道院



第三卷

第三十八章 外部には正しくおこない、危険に際して主により頼む

1 主

《子よ、あなたはどこにいても、外部的などんな用事をする時にも、心を自由に、自分自身を支配し、物事に支配されることのないように、全力をあげて努めなければならない。あなたは、おこなおうとする仕事のしもべや奴隷ではなく、指導者となりなさい。あなたは、奴隷から解放された神の子としての身分と自由を受け、イスラエルの真の民とならなければならない。神の子は、今の世のものを越えて永遠を目的とし、左の目で過ぎ去るものを見て、右の目で天を眺め、この世に執着することなく、神の整然とした定めのおりに、最高の技術者が定められたままに、神への奉仕のために利用するのである。》

2 主に尋ねなさい

もしまた、どんな場合にも、物事の皮相にとどまらず、見たこと聞いたことを表面だけで判断せず、主のみ旨を伺^{うかが}うため、モーセと共にするに幕屋に入るなら、あなたはたびたび神の返事を聞き、現在・未来の多くのことについて教えられよう。(出エジプト 33・8 参照)。

モーセは、疑問や難題を解決する時には、いつも幕屋を訪れ、危険と悪意に勝つためには祈りに頼った。それと同様に、あなたも心の隠れ家^がに退いて、熱心に神の助けを願わなければならない。ヨシュアとイスラエルの子らとは、「先に主に伺いを立てず」(ヨシュア 9・14)、人の甘言を信じすぎ、偽りの同情に目がくらみ、ギブオン人にだまされたと、聖書にある。》

第三十九章 人は俗事にわずらわされてはならない

1 主

《子よ、あなたの心配をすべて私にゆだねなさい。私は随時よい方法で取り扱う。私のはからいを待ちなさい。そうすれば、あなたに益があると知るであろう。》

2 子

《主よ、喜んで私のことをおまかせします。私の考えはほとんど役立たないからです。ああ、私は、将来起こることを心配せず、完全にあなたのみ旨に従いたいです。》

3 主

《子よ、人はしばしば自分の望みのために動く。しかし、それを得るや否や、もはや興味を失う。人の望みは、同じ物事に長くとどまることなく、一つからほかへと移るからである。ごくわずかなことにおいても、自分を捨てることは、決して小さなことではない。》

4 敵は休むことを知らない

人間のほんとうの霊的進歩は、自分を捨てることにある、そして、自分を捨てた人は、誰よりも自由で安全である。しかしすべての善人に反抗する、あの古からの敵は、誘惑の手をとどめることがない。むしろ、警戒を怠っている者を、畏におとし入れようとして、昼夜の分かちなく、策略をめぐらし待ちかまえている。主は、「警戒して祈れ、誘惑に陥らないように！」(マタイ 26・41)と言われる。》

2021 聖ヨセフ年 - 5 労働者聖ヨセフ

ナザレの里の 貧しき大工



ノートル・ダム・ド・ヴィ聖堂の
アピラの聖ヨセフ修道院



聖ヨセフと少年イエス



聖ヨセフと少年イエス

「聖ヨセフについて伝説的にいろいろ語られますが、わたしはむしろ、ヨセフさまは自分がした仕事の分だけ支払われないことがあったり、出来上がった製品にケチをつけられたこともあったと思うのが好きです。わたしたちのように非難されたり、お隣さんとちょっとしたもめごともあったでしょう。わたしたちと同じように人々とつき合っておられたのではないのでしょうか。」

～小さきテレーズ～



わたしたちは神から平凡な生活に呼ばれています。わたしたちは人々によいことをするために素晴らしい能力を使って、何かすばらしいことをしたいと思いがちです。けれどもナザレの生活はそんな非凡な生活ではありませんでした。なんということもない出来事、ほとんど何もない単調な1日。このような平凡な生活にこそ神の強烈ないのちが潜んでいます。*

伊従 信子

ノートルダム・ド・ヴィ

* 『いのりの道』 聖母文庫、聖母の騎士社

創造主への賛美（42）

くのり 彰

イエズス様を愛し、愛のいけにえとなるには、すべてを焼きつくして変化させるこの愛の働きを受けるには、弱ければ弱いほど、そして何の望みも徳もなければいけないほど、よいのです。（手紙 176）

誤解を招きかねないこの言葉は、弱さの礼賛、望みのない絶望状態、徳などまったくない自堕落な不徳の状態がよいと言っているのではない。実際には、まったく逆の状態であると言って良いだろう。というのも、それは、神がすべてにおいてすべてとなることだからである。

自分のうちに強さが残っている時は、その強さを誇り、望みがある時は、その望みにしがみつき、徳を持っている時は、その徳を人々の前にひけらかすのである。それゆえ、この段階では、いまだに自分に頼り、全面的に神に頼るということはしていない。

奥村一郎神父は、「テレーズと東洋的霊性」という論考の中で、リジューの聖テレジアのこの言葉について触れている。そして「老子」の「徳なきをもって徳とする」という逆説との類似性を挙げ、こう指摘している。

上徳は徳とせず、是をもって徳あり。

下徳は徳を失わず、是をもって徳なし。

（「老子」第三十八章）

簡潔に言うと、「無徳の徳」。徳に執すれば、真の徳なしということである。上記にもある、まさに、十字架の聖ヨハネの「無（Nada）」にも通ずる。地上的なものはもとより、天上的なものからも一切離脱の無。テレーズが「ところで、これがむずかしい点なのです」とつけ加えている「無徳」のことである。禅でいう「無一物中無尽蔵」がここでも、十字架の聖ヨハネからテレーズに伝えられた、「無（Nada）と全（Todo）」の霊性と見事に出会う不思議がある。

（続く）

十字架の聖ヨハネのこぼれ話 (157)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

私たちが訪ねるとのことです④

彼（報告者）は、この証人にどこへ行くのか尋ねました。証人は、兄弟たちのための食べ物を探しに行くところだと答えました。実はこの証人は、お金をまったく持っていませんでした。報告者は彼に言いました。「裁判所の裁判官たちは、この修道院を非難していますよ。必要なものを準備するためにこれを持って行ってください」と。こうして彼に金貨 12 枚をくれました（ドブロン金貨だったかエスクード金貨であったかは、この証人は思い出せません）。ここから考えつくのは、十字架のヨハネ修士は、主に心から信頼しており、困窮している時には主は彼を助けに来てくださると確信していたのでしよう。この種の問題で主に不平を言うことは決してありませんでした。こうしてこの証人は、ヨハネ修士と一緒にあった全期間、これと似たような他の出来事がしばしば起きたのを体験いたしました」。

聖アンドレスのイノセンシオも、次のように証言しています。「かつて、本証人は、そこに出席していたので、目撃したのですが、カルメル会の修道者の間では、管区会議か総会議の終りに、罪を犯した者は、会議の全出席者の前でその罪を認めなくてはならないという習慣がありました。聖なる十字架のヨハネ修父が前に出ていき、自分の罪を述べた後に、管区長は、彼が世俗の人をほとんど訪問しなかったと非難しました。ヨハネ修父は、いつものようにひざまずいた後、彼への非難を大きな喜びと謙遜をもって受け入れ、頭を上げ、カルメル会で行われていた発言の許可を願いました。その許可が与えられると、彼はこう言いました。「我らの父よ、それらの人々を訪問し、施しをするよう説得するために費やさなければならない時間を、私は自分の修室で我らの主に、私の説得によってなさなければならないことを、彼らが主のためにするように、これらの人々の霊魂を動かし、主が私の修道院の必要なものを整えてくださるようにと、祈願するために使いました。何の必要もなく、愛徳の業のためでもないのに、何のために世俗の人々を訪問しなければならないのでしょうか」。これに対し、長上は黙ってしまいましたが、そこにいたすべての人は、聖人がとてもよく語ったと思ったものです」。

（続く）

（P. 九里訳）

復活節 第5主日

(ヨハネ15：1－8)

「わたしはまことのぶどうの木」、「わたしにつながっていなさい」とイエスは言われます。そうしないと、「あなたがたは何もできないから」だということです。イエスを離れては何もできないとは、どういう意味でしょうか。実際には、イエスを信じていなくても、人はいろいろなことができるではありませんか。

ここで言っている「できる」、「できない」とは、ぶどうの木の豊かな実りを「結ぶ」、「結ばない」ということを表しています。もし「豊かに実を結び、わたしの弟子となるなら、それによって、わたしの父は栄光をお受けになる」とイエスは言います。逆に、実を結ばないなら、イエスの弟子とは言えず、父が栄光をお受けになることもありません。「何もできない」とはこのことを意味しているといえるでしょう。

たとえ、高度に発展した社会、便利で快適な社会を築くことができても、もしイエスの言う実りを結んでいないなら、その社会は殺伐とした社会となってしまいます。人の心の飢え渴きは、技術や経済の発展だけでは満たせないものなのです。

イエスの言う実りは、私たちがイエスの弟子となり、父が栄光を受けることです。イエスの弟子としての私たちの行為、行動をとおして、父がほめたえられるところに特徴があります。それは、私たち自身がほめられることではなく、私たちをとおして神様がほめられることです。私たちのすごさではなく、神様の優しさや愛、温かさ、誠実さ、尊さを示すことで、人が「神様っていいな」、「素晴らしいな」と賛美する気持ちになることができたとき、豊かな実を結んでいるといえるのではないのでしょうか。

聖人と呼ばれる人々は皆、自分のすごさを見せようとはしていません。イエスの弟子として、喜んで自分を与え、奉仕することで、イエスの姿や神のいつくしみを分かりやすく、具体的に現わしてくれます。聖人たちは、多くの人々が神を賛美し、敬い、イエスの弟子となっていく気にさせることで、豊かな実を結んでいるのです。

私たちも、イエス様というぶどうの木にしっかりとつながり、神様のいつくしみを感じさせるような生き方をとおして、この社会を内側から豊かにしていくことができますように。

(今泉健 神父)

復活節 第6主日

(ヨハネ15 : 6 - 17)

わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい

ご昇天の準備として、私たちは前もって四番目の福音から「最後の晩餐」におけるキリストのお別れのメッセージを読みます。これは、キリストの生活に見られるように愛の大きな徳に焦点をあてています。

本日の福音のメッセージは、先週の主日の福音の続きです。イエスと弟子たちとの親密な関係を描写するのにぶどうの木とその枝のイメージで語られています。この関係は弟子が永遠の生命のための実を結ぶには必要なものでした。本日の福音では、イエスは弟子たちにイエスの愛にとどまるように、そしてお互いに愛し合うように求めています。この隣人に対する愛は弟子たちに対するキリストの愛がお手本、模範となっていなければなりません。これこそが弟子たちのためにキリストが生命をなげうったことなのです。福音はまたイエスが説明している神的な相互関係を強調しています。その相互関係とは、おん父がおん子を愛したようにおん子は弟子たちを愛し、弟子たちはお互いに愛し合わなければならないということです。

私たちは、この愛の掟をイエスの真の愛と奉仕の模範に倣うことによって実行することができます。イエスの掟を明確に理解するために、私たちは謙虚な奉仕、平等、友好の真のふるまいである「弟子の足を洗う」という言葉を思いおこします。これは、その最も深いレベルにおける愛の関係性で、その源泉はおん父がおん子に対して持ち、そして今度はおん子が選ばれた者たちと分かち合う愛なのです。イエスの現存を私たちの中に生かし積極的に保つために、私たちは皆、キリストの愛のうちにこの掟を保ち生きるように招かれています。キリストはまた、私たちがキリストを選んだのではなく、私たちが実を結びに出かけていくためにキリストが私たちを選んだのだということを思いおこさせます。私たちの召命や職業が何であれ、私たちそれぞれが役割を果たし、神を愛し、私たちの言葉と行いによって神の愛を他者と分かち合うための使命を持っているのです。

(Sr. Paulina)

主の昇天

(マルコ16:15-20)

今日のみことばは、主の昇天のみことばです。十字架にはりつけにされ亡くなられた神の子主イエス・キリストは復活し、弟子たちや多くの人びとにお現われになられて、ご自身が復活して生きておられることを証して、弟子たちがその証人として雄々しく歩んで行くことができる様になさっておられましたが、それはいつまでも続くものではありませんでした。イエスが父なる神の御元にお戻りになられる、天に昇られる日が、ついに訪れました。

イエスは天に昇られる前、天に上げられ神の右の座に着かれる前、弟子たちとともにお過ごしになられた時に、弟子たちに大切な使命を命じられました。「全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい。」と。そして「信じて洗礼を受ける者は救われるが、信じない者は滅びの宣告を受ける。とも言われました。

目に見えぬ神の独り子が人となり、私たちの罪を贖うため、十字架に架けられたのは、まさにそのことのためでした。イエスが公生活において人々に宣べ伝えられた良き便り、福音を弟子たちは、人々に宣べ伝える役割をイエスから受けた、命じられたわけです。

そしてその役割は、イエスから直接に命令を受けた人々だけではなく、洗礼を受けた全ての人、私たちにもその役割があり、その役割を担っていることは、しっかりと心に留める必要はあるでしょうね。福音を宣べ伝えられた者が、信じて洗礼を受け、今度は福音を宣べ伝える者となってゆく…。この様に使徒たちの時代から、綿々と福音宣教が行われ、今なお行われています。神は宣教という手段を用いて、ご自分のことを人々に告げ知らせる様になさいました。

イエスの昇天を記念、祝っている私たちですが、イエスが弟子たちに命じられた様に私たちもすべての造られたものに、福音を宣べ伝えることができる様にいたしましょう。ご昇天の後、弟子たちは至るところで宣教を進めていった訳ですがみことばにある様に、主はともに働いて下さいます。目に見えない神は私たちとともにおられます。私たちが福音を宣べ伝える時、ともに働いて下さいます。このことは私たちにとって大きな力となりますね。天に目を上げ心を向けて、イエスの言葉に力づけられながら、今日一日を大切に歩んでゆくことができます様に。

(Fr. 古川利雅)

聖霊降臨の主日 (B)

(ヨハネ 20 : 19 - 23)

私たちは、ご復活後の一連の出来事を経て、ユダヤ教の大祝日である過ぎ越しから50日目の五旬祭に起こった素晴らしい出来事を本日お祝いします。エルサレムに多くの巡礼者が訪れていたこの日、約束されていた聖霊が、ドラマチックな形で降り、教会が誕生しました。聖霊降臨は、聖週間から記念してきたイエスのご受難、死、復活、昇天という偉大な神秘のしめくりとなる出来事です。今日の祭日は、神が私たちの人生に特別に介入し、イエスが私たちを三位一体の神秘にあずからせてくださった日です。

今日の福音では、混乱と恐怖のうちにいた使徒たちが、鍵をかけた部屋に閉じこもっていました。するとイエスが現れ、「あなたがたに平和があるように」と言われ、息を吹きかけて「聖霊を受けなさい」と言われました。聖霊は、彼らを変化させて、勇気と力と権能を与えました。そして彼らは、神から与えられた使命を生きる勇気と大胆さを身に帯びたのです。

私たちも、聖霊の恵みによって力づけられています。おそれ、困惑と弱さのうちに閉じこもる私たちは外に出ることができます。私たちの人生には、何度も戸に鍵をかける瞬間があります。私たちの心の扉を調べてみましょう。心の扉は開いていますか？それとも誰からも挑発されないように自分の信仰を隠しているのでしょうか？自分の日常生活の中で、聖霊降臨を体験しているのでしょうか？私たちも聖霊によって新たにされ、神の現存と力に自分自身を開き、神の恵みと平和と和解の道具になろうではありませんか。

この祭日にあたり、私たちは、自分たちを変容させ、聖化し、力づけてくれる聖霊の力強いはたらきを自分の内に体験することに招かれています。また、私たちが洗礼と堅信の時に神にたてた約束を更新し、信仰を宣言してこれを実践する日でもあります。

(Sr. Paulina)

三位一体の主日

(マタイ 28 : 16 - 20)

復活したイエスは弟子たちに現れ、言われました。

「あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしてください。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」

この中の「父と子と聖霊の名によって洗礼を授ける」という言葉は、直訳すると「父と子と聖霊の名の中に沈める」という言葉になります。「名」とはそのものの実態を意味します。「イエスの名によって」とか「主のみ名によって」という時も「イエスご自身によって」、「主ご自身によって」と言い換えることができます。

したがって、イエスが教えた洗礼は、御父ご自身、御子ご自身、聖霊ご自身の中に沈められてしまうことを意味しているのです。

御父、御子、聖霊は別々の位格でありながら、決して離れることのない三者です。また三者それぞれが永遠の神様です。それぞれの位格は愛によってしっかりと結び合わされ、別れてしまうことはないのです。三者の間には永遠の愛が燃えており、愛の炎が絆だといえます。

イエスが教えた洗礼は、この三位一体の愛の中に沈められ、焼き尽くされる洗礼と言ってもいいでしょう。洗礼者ヨハネは言いました。「わたしはあなたたちに水で洗礼を授けるが、その方は聖霊と火であなたたちに洗礼をお授けになる」(マルコ 3・11)。

教理では、洗礼を受けるとすべての罪がゆるされると教えられています。罪は魂に付着した汚れと言ってもいいでしょう。洗礼によって罪がゆるされるのは、この三位一体の愛に焼き尽くされてしまうからだと思います。

大切なのは、この愛の火の中に入れられた私たちは、いつもこの愛の中で燃やされ続けていることだと思います。熱いイメージですがもちろん火傷はしません。この愛から出てしまうと、弱い私たちはすぐに罪に汚れてしまいます。意識をもっていつも三位の愛の中にとどまり、愛に燃やされて生きることが信仰生活ではないでしょうか。

十字を切る時、「父と子と聖霊のみ名によって」と言うのは、いつも父と子と聖霊の愛に包まれ、燃やされて生きようと意識するためです。私たちは洗礼を受け、神の愛の懷の中に飛び込みました。神に愛され、その愛に燃やされ、私たちも愛を生きるためです。その中から出てしまい、信仰のない冷めた生き方とならないように、いつも十字を切りながら祈り続けて歩みましょう。

(今泉健 神父)

糸巻き棒からペンへ(64)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス OCD

多くの若い女性が修道院に入りたいとテレジアに願って来ました。けれどもは、聖女は、そこで共同生活する修道女としては13人以上受け入れるつもりはありませんでした。というのも、大人数の修道院の持つ危険を、経験によってよく知っていたからです。彼女としては自分と意気投合する成熟した女性たちと共に何かをしたかったのです。けれどもそれが何であるかも分からず、派遣されるにふさわしい場所も見つからなかったのですが。さらに、彼女の内には、他者のために何かをしたいという強い欲求が増大していきました。しかし、当時の女性には何らかの使徒職を行なうことが禁じられていることも知っていました。

「これらの姉妹たちの大きな勇気と神が奉仕のために与えられた気力を考えると、彼女たちの内にあるこれらの富は、何か大きな目的のためにあるのではと、しばしば思いました。時がたつにつれて、霊魂の善益のために何かをしたいという私の望みは、大きくなっていきました。しばしば私は、たくさんの宝を保管し、それをすべての人に享受させたいと望みながら、それを分配しようとする手を縛られている人のように感じました」(『創立史』1,6)。

彼女は、自分の生涯の奉献が教会にとってよいものであると知っていました。自分が大きな宝を所有していると感じていましたので、それをすべての人と分かち合いたかったのです。けれども、当時の女性の状況においては、この大きな望みを実践するどの可能性の門も閉じられていました。とても含蓄ある表現をもって、彼女は手を縛られているようであると言っています。すでに見てきたように、それが、この時代の社会における女性の悲しい状況でした。事態は、教会の内部でもそれほど異なっていませんでした。受け入れられていた女性の唯一の召命は、禁域の修道女でした。奉献生活者には、類似のこのためにいかなる働きも行うことは許されていませんでした。

(P.九里訳)

いのちの言葉 5月

神は愛です。愛にとどまる人は、神の内にとどまり、
神もその人の内にとどまってくださいます。

(ヨハネの手紙 — 4・16)

聖書の中で最も光り輝く神の定義は、おそらく、「神は愛です」という定義でしょう。この言葉は、今月のみ言葉が記されている手紙の中に2度でできます。著者は、使徒ヨハネの霊性を継承する弟子で、ヨハネ福音書のメッセージがここでも反映されています。紀元一世紀のキリスト者共同体に宛てて書かれた使徒的書簡と思われるが、すでに当時、共同体は「信仰」と「証し」両面で不和と分裂という、大きな苦しみに直面していました。

神は愛です。神はご自身の内で三位一体の完全な交わりを生きておられ、この愛を被造物の上に豊かに注がれます。神を受け入れる人には、ご自身のDNAと愛する能力、そして神の子となる力をお与えになります¹。神の愛は無償であり、すべての恐れや不安から私たちを解放してくれます²。

「私たちが神の内に入り、神が私たちの内におられる」、という完全な交わりが実現されるためには、この躍動的で、ダイナミックで、創造的な愛に「とどまる」ことが不可欠です。だからこそ、イエスの弟子たちは、互いに愛し合い、自分の命を捧げ、必要としている人には自分の持ち物も分け与えるように呼ばれました。この愛ゆえに共同体は一致し、神の言葉に預かり、かつ、忠実であり得たのです。

神は愛です。愛にとどまる人は、神の内にとどまり、
神もその人の内にとどまってくださいます。

たとえ、今日のパンデミックのような予想できないような事態に遭遇したり、あるいは、個人的に、または共同体として、様々な困難に出会ったとしても、このみ言葉は常に、私たちにとって、力強い福音のメッセージです。

苦しみを前にするとき、私たちも迷い、恐れ、自分の殻に閉じこもったり、お互いの間に橋を架けるどころか、逆に、自分の身の安全が脅かされないよう壁を作ったりするかもしれません。

このような状況にあって、神様の愛を信じ、愛し続けることができるのでしょうか？

2020年8月にバイルートの港で起きた恐ろしい爆発事故のニュースを知ったとき、レバノン出身のジョジアンは、国から遠く離れた所にいました。彼女は、「いのちの言葉」を共に生きる仲間にごう語っています。「私の心は痛みと憤り、苦しみ、絶望に襲われました。私が生まれ育った所が一瞬にして瓦礫と化し、親戚や友人の間にも死傷者が出て、多くが家も失

いました。子供の頃から慣れ親しんだ建物や学校、病院、それらすべて破壊されてしまったことを考えると、『レバノンが、これまでどれほどの苦しみを味わってきたか、それだけではまだ不十分だったと言うの?』という思いがこみあげてきました。

私は、母や兄弟に寄り添い、たくさんの人々からの励まし、愛と祈りのメッセージに答え、傷ついた人々の悲痛な声に耳を傾けました。苦しむ人々との出会いは、神様が私の心に注がれた愛を思いおこさせました。この愛を生きる時だと確信しました。涙の内にも私は、レバノンの人々の活動に、特に、多くの若者たちが立ち上がり周りの人々に手を差し伸べている姿に光を見ました。また、みんなが兄弟姉妹だと発見して真の対話と調和によってこそ解決の道が開かれるという確信のもとに、政治に真剣に取り組もうとする若者たちにも、私は大きな希望を見出すことができました。」

神は愛です。愛にとどまる人は、神の内にとどまり、
神もその人の内にとどまってくださいます。

このみ言葉を生きるにあたり、キアラ・ルービックは語っています。「もはや、『十字架』を『栄光』から切り離すことも、また、『十字架のイエス』を『復活のイエス』から切り離すことも出来ません。いずれも『愛である神』の神秘の2つの側面だからです。³… 苦しみを神様にお捧げしたなら、もうそのことを一切考えずに、今、自分が置かれているところで、神様が求められることを実行しましょう。そして、何よりもまず人々を愛し、まわりの兄弟を愛するようにするなら、きっと、私たちは、驚くような体験をするでしょう。心は平和、愛、喜び、光に満たされ、新たな力が湧いてくる体験です。

このような豊かな体験をすることで、私たちは、他の人々が涙のうちにも幸せを見出し、困難があっても心に平安を保てるように手助けできるに違いありません。こうして私たちも、人々に喜びをもたらす道具、すべての人が探し求める幸せをもたらす道具となれるでしょう。」⁴

神は愛です。愛にとどまる人は、神の内にとどまり、
神もその人の内にとどまってくださいます。

レティツィア・マグリ

連絡先: フォコラーレ 東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail: tokyofocfem@gmail.com

ホームページ: <https://www.focolare.org/japan/>

¹ ヨハネ 1,12; 1 ヨハネ 3,1 参照

² 1 ヨハネ 4,18 参照

³ 1 ヨハネ 4,10 参照

⁴ キアラ・ルービックいのちの言葉 1984年1月

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。

＜＜ Communications (時事通信) ＞＞

2021年4月12日

教皇フランシスコの歴史的なイラク訪問



ローマ教皇フランシスコが今まで切望され何度となく延期されてきたイラク訪問が、ついに2021年5月5日～8日に実現しました。それは、全ての人々に歴史的なイベントであるとみなされました。確かにこれは、教皇の最初のイラク訪問となりました。それは何よりも、利己主義による最も独断的で破壊的な国際紛争のなすがままに翻弄され続けてきた、この広大で資源

に富む国に住む男女の人々への訪問でもありました。そして、聖座の戦争反対の勇敢な表明者として、また良心による人権と宗教の自由促進の尽力者としての姿を、教皇が歴史に刻み込んだ訪問でした。

教皇はまた、この地のアブラハムの足跡において、イスラム教徒が今大部分を支配するこの国で真の神への信仰が再び呼び起されるよう願われました。イラクには、現在も好戦的な熱狂派の危険性が残存しています。イスラミック ステートのジハードは、数百万人ものカトリック信徒を追放し、彼らは未来への疑惑そして現実の恐れと不安を残してこの国から立ち去りました。

今回のイラク訪問は、短く敏速に行われました。教皇は、国の支配者や諸宗教の代表者たちと会われました。また彼は、イスラミック ステートから屈辱を受け破壊されて住民が誰もいなくなったニネベ平原の大きなかつてのキリスト者の村で、日曜日のアンジェラス祈りを30分間奉げることがおできになりました。その少し前に、教皇はモスル市の中心地で黙想の時を持たれました。この地でも、同じくイスラミック ステートにより略奪され破壊されて、多くのイスラム教徒、キリスト教徒、ヤズディ教徒が排除されていきました。

教皇は、このイラク訪問の終わりを締めくくって、クルド人自治区の中心アルビールで教皇ミサを奉げられました。この訪問は、教皇自らが謙遜で愛するものとして、真実と希望の証をもたらされたまさに歴史的な旅でした。

+ジャン ベンジャミン スレイマン、バグダッド ラテン大司教
(跣足カルメル会士・レバノン管区出身)

(小宮山延子訳)

カルメル誌 新刊案内



2020年 冬号 No.379

《現代に生きる祈りの伝統》**

桐生聖クララ会—新しい修道会、新しい生活
シスター・マリア・イルミナータ

信仰生活(再)入門(12) 聖書に学ぶ祈りの道(4)
—現代のための神のみことば、テレーズとともに②

片山はるひ
道の靈性(4)—幼い者の隠れた道 田畑邦治

キリストに伴われて季節を巡る(12)
—クリスマスの歎び 伊従信子

クリスマスメッセージ 二〇二〇
ポーリン・フェルナンデス

カルメル会の会則に見る
アシェーシスと修道生活(12) 九里 彰

靈的研究会講義録(10)—聖書・祈り・愛について
奥村一郎

2020年 特集号

「すべてのいのちを守るため」
—フランシスコ教皇のメッセージ—

神の愛といのちの福音を次世代に
松田浩一

教皇フランシスコの説く「平和への道」
九里 彰

司牧者のががみ 教皇フランシスコ
今泉 健

教皇フランシスコならではの視点と光
—寄留者の尊厳
大瀬 高司

ご案内

1冊 520円 A5サイズ 50～70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・
各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

- 送付ご希望の方は、700円【520円(+送料180円)】程度の献金を下記へお振込み下さい
- 年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊:春夏秋冬+特集号 計 3,500円)を
下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会

※2021年度より料金が変わります(1冊580円 年間購読3,600円)

- お問い合わせは、事務担当:内田幸子宛に上野毛修道院へ手紙かファックス、又はe-mailで。
〒159-0093 世田谷区上野毛2-14-25 Fax: 03-3704-1764

E-mail: carmelshi.iimu@gmail.com

書籍案内



パンデミック 後の選択

教皇フランシスコ

無関心のグローバリゼーションは、わたしたちをその歩みにおいて危険にさらし挑発し続けます。どうかわたしたちが、正義と愛と連帯という必須の抗体を見いだせますように。

COVID-19 という人類の危機から生まれうる、貧しい人、弱い立場にある人を中心にした、新しい世界を築くための手掛かり。

カトリック中央協議会

『パンデミック後の選択』

著者：教皇フランシスコ

判型：四六・並製

ページ数：80 ページ

価格：本体 500 円（税込 550 円）

ISBN：978-4-87750-224-9

出版社：カトリック中央協議会

バチカン出版局より刊行された Life After the Pandemic の邦訳。パンデミックに言及する 8 つの文書を収録。高い感染リスクにさらされながらも他者に献身する人々や、収入が絶たれたり、在宅要請を守るのが難しかったりする弱い立場の人々に心を寄せつつ、困難な試練を新しい選択への好機に変えるよう励ます。単にパンデミック以前を取り戻すのではなく、連帯を示し、もっとも傷つきやすい人を中心にした社会を構築すべきとの呼びかけ。

目次・内容

- 序（マイケル・ツァーニー枢機卿, SJ）
- なぜ怖がるのか（特別な祈りの式におけるウルビ・エト・オルビのメッセージ、2020年3月27日、サンピエトロ大聖堂前にて）
- コロナ後への備えの重要性（ロベルト・アンドレス・ガラルド氏あて書簡、2020年3月28日付）
- 新たな炎のように（2020年復活祭ウルビ・エト・オルビのメッセージ、2020年4月12日、サンピエトロ大聖堂にて）
- 目立たぬ兵士たち（草の根市民運動あて書簡、2020年4月12日付）
- 再起計画（雑誌 Vida Nueva（新しい生）への書き下ろし、2020年4月17日）
- エゴイズム——より悪質なウイルス（復活節第二主日（神のいつくしみの主日）説教抜粋、2020年4月19日、サントスピリト・イン・サッシア教会にて）
- ストリートペーパー関係者へ（2020年4月21日付書簡）
- 地球規模の問題を乗り越える（第50回アースデイについての一般謁見講話抜粋、2020年4月22日）
- 付録（マリアへの祈り一、二）
- あとがき

新書紹介

十字架の聖ヨハネ理解のための

待望の書 翻訳刊行



『十字架の聖ヨハネの霊性』

フェデリコ・ルイス師の講話
〈十字架の聖ヨハネ・霊性神学研究の第一人者〉

著者：フェデリコ・ルイス

訳者：九里 彰

判型：B6 判並製

ページ数：184 ページ

価格：本体 1,600 円+税

ISBN：978-4-8056-3918-4 C0016

発行：サンパウロ

スペインで「詩人の守護聖人」と称される十字架の聖ヨハネは、日常生活の中で神との親密な関係を生き、キリストと、隣人との愛の交わりを生きた聖人でした。自身の神体験を詩で表し、自らそれを解説し、著作として残しています。彼は決して近寄り難い人物だったわけではなく、バランスの取れた温厚な人でした。

インターネットや AI が発達する、「霊性の時代」といわれる現代において、神との出会いを生きる真の意味を、十字架の聖ヨハネの思想、生涯の中に探ることができます。

十字架聖ヨハネを正しく理解することは、霊性を正しく理解することの基礎となっていくます。

フェデリコ・ルイス・サルバドル

1933 年スペイン、バレンシア生まれ。1950 年跣足カルメル修道会入会。

1957 年司祭叙階。ローマ・カルメル会国際神学大学テレジアヌム教授。

2018 年 10 月 27 日マドリードにて帰天。享年 85 歳

九里 彰

カイルメル修道会司祭。1981 年上智大学大学院哲学専攻、博士後期課程修了。1990 年カルメル会入会。1997 年司祭叙階。1999~2002 年スペイン留学。カルメル修道会 元日本地区総長代理。現在、金沢広坂修道院院長

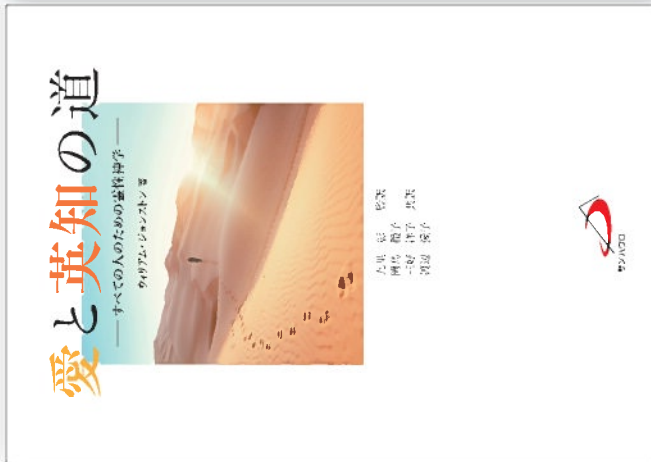
愛と英知の道

—すべての人のための霊性神学—

ウィリアム・ジョンストン 著

九里 彰 監訳

岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生涯の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにし

第一部 キリスト教の伝統

- 第1章 福音書(1)
- 第2章 福音書(2)
- 第3章 理性対神秘主義
- 第4章 神秘主義と愛
- 第5章 東方のキリスト教
- 第6章 愛を通して生まれる英知

第二部 対話

- 第7章 科学と神秘神学
- 第8章 修徳主義とアジア
- 第9章 神秘主義と根源的なエネルギヤ
- 第10章 英知と(空)

第三部 現代の神秘的な旅

- 第11章 信仰の旅
- 第12章 浄化の道
- 第13章 暗夜
- 第14章 (愛のうちにある)
- 第15章 花嫁と花知
- 第16章 一 致
- 第17章 英知
- 第18章 活動
- 第19章 社会活動の神秘主義

ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アイルランドのベルファストに生まれる。

イエズス会に入会し、26歳で来日。

32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を上智大学などで講じる。また、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。パドロー・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、遠藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。





書籍案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

———目次———

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
- 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
- 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
- 4 脱原発の倫理／久保文彦
- 5 何のために働くのか／神谷秀樹
- 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
- 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
- 8 関係の倫理学／清水正之
- 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
- 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
- 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
- 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
- 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ

2020年のご案内

年間テーマ 手をとりあい、白ら歩み出す



大瀬高司 師

好評の2019年の連載「カトリックの信仰を生きた愛国者・ステファノ山本信次郎」に引き続き大瀬高司神父の新連載が始まります。

●近代日本の歩みとカトリック教会
——山本信次郎研究ノートより
大瀬高司（カルメル修道会司祭）

山本信次郎研究で得られた成果から、近代日本のカトリック教会での出来事や人物を取り上げ、これまであまり知られていないエピソードを中心に紹介します。

その他の新連載

- アンジェラスの鐘／加藤美紀（教育学者）
- 知恵ある者たちのアフォリズム／加藤久美子（聖書学者）
- かたわらに、今、たたずんで／大野高志（日本基督教団牧師）
- 聖歌と賛歌——民衆霊性と多様性から
杉本ゆり（中世教会音楽研究者）
- 新米神父の開拓奮闘記／大西勇史（広島教区司祭）
- いのちの交わりの場——エコロジカルな暮らしのために
吉川まみ（環境学者）

継続連載

- 典礼暦と季節の味わい（応用編）
柳谷晃子（食文化研究所主宰）



月刊『福音宣教』お申し込み方法

◇郵便局に備えつけの振替用紙にて年間定期購読料を下記口座までお振り込みください。ご入金確認後、発送いたします。

- 口座番号：00170-2-84745
- 加入者名：オリエンズ宗教研究所
- ご購読料：7500円（税・送料込）
- 備考欄：「福音宣教～月号から」とご希望の開始月をご明記ください。ご指定がなければ、最新号からお送りいたします。

年間定期購読料（年11回、8・9月合併号）7500円（税・送料込）一部定価600円＋税

オリエンズ宗教研究所 〒156-0043 東京都世田谷区松原 2-28-5
Tel 03-3322-7601 Fax 03-3325-5322 <https://www.oriens.or.jp/>



福者マリー=ユジェーヌ神父に導かれて
十字架の聖ヨハネの
ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価**540**円(税込)

【聖母文庫】**287**

**第2版
好評発売中!**



マリー = ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネ
を生き、体験し、確認した教えなのです。
ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの
教えは現代の人々にも十分適応されます。
また、神の命を伝え、実践的手段を示して
聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の
配慮が伝わってきます。(「はじめに」より)

神と親しく生きる
いのりの道

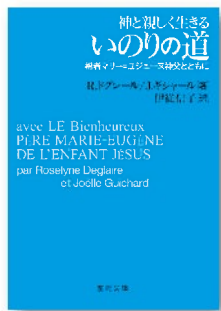
福者マリー=ユジェーヌ神父とともに

R. ドブレール / J. ギシャル 著

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】**246**

定価**540**円(税込) 209頁



わたしは神をみたい
いのりの道をゆく

マリー=ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

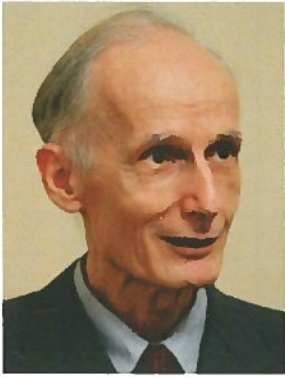
ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】**268**

定価**648**円(税込) 281頁



ご注文・お問い合わせ先

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN
第1巻	I 超越体験 一宗教論 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	定価(本体+税) 9784862852151 3,800 円+税
第2巻	II 真理と神秘 一聖書の黙想 日常生活を貫いて人間とかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	III 信仰と幸い 一キリスト教の本質 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」をとおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに広げて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践 信仰との関わり合いの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

●リーゼンフーバー、クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(～2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知 泉 書 館 〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166
http://www.chisen.co.jp

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）



東京 上野毛 霊性センター

黙想企画 **上野毛 聖テレジア修道院(黙想)** **
(2021年~)

- ・祭日のミサに参加するために

チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

【クリスマス】

12月24日(金)~25日(土) 朝食《講話なし、夕食なし》

- ・聖書深読黙想会(土曜日17時~日曜日16時) 大瀬高司 神父

5月29日(土)~30日(日)	11月27日(土)~28日(日)
7月 3日(土)~ 4日(日)	2022年
8月28日(土)~29日(日)	1月 8日(土)~ 9日(日)
10月 2日(土)~ 3日(日)	3月12日(土)~13日(日)

- ・《カルメル会聖人に学ぶ黙想会》(水曜日10時~16時・昼食付) カルメル会士

5月19日	6月16日	7月21日	
9月22日	10月20日	11月17日	12月15日
2022年	1月19日	2月16日	3月16日

- ・一泊黙想会 (土曜日17時~日曜日16時) カルメル会士

5月22日(土)~23日(日)	2022年
7月24日(土)~25日(日)	1月29日(土)~30日(日)
9月25日(土)~26日(日)	3月19日(土)~20日(日)
11月20日(土)~21日(日)	

- ・奉獻生活者のための黙想会 (初日17時~最終日朝食) カルメル会士

8月 1日(日)~10日(火)
8月16日(月)~25日(水)
12月27日(月)~1月 5日(水)

- ・青年黙想会(男女) 35歳まで(初日16時~翌日16時) カルメル会士

2022年 3月25日(金)~27日(日)

- ・ 召命黙想会(男女) 40歳まで(初日16時～翌日16時) カルメル会士
11月 5日(金)～7日(日)
- ・ カルメル会召命黙想会(対象男子) (土曜日16時～日曜日16時)カルメル会士
6月12日(土)～13日(日) 2022年
10月 9日(土)～10日(日) 2月26日(土)～27日(日)
12月11日(土)～12日(日)
- ・ 特別黙想会(初日20時～最終日16時)Sr. 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)
6月18日(金)～20日(日)
11月12日(金)～14日(日)
- ・ キリスト教霊性入門(10時～16時 昼食付) 松田浩一神父
5月13日(木) 6月17日(木) 7月8日(木)



- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です(グループ、個人いずれも)。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせはFAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂けますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25
聖テレジア修道院(黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール: mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ: <http://www.carmel-monastery.jp>



★★★カルメル会召命黙想会★★★

カルメル会の靈性を生きることとおして教会に生涯を奉げる道があります。聖テレジアや十字架の聖ヨハネらの教えに培われて、人々に祈りと兄弟的な生活を証ししていく道です。この道に関心を抱き、心に神の呼びかけを感じている方のお手伝いをさせていただきたいと思ひます。

指導：カルメル会士

対象：カルメル会の召命に関心のある男子

場所：カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

日時：2021年 4月10日（土）～11日（日） 16時～翌日16時

6月12日（土）～13日（日） //

10月9日（土）～10日（日） //

12月11日（土）～12日（日） //

2022年 2月26日（土）～27日（日） //

会費：¥5000（3食付き）

*お問合せ お申し込み：

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

TEL.03-5706-7355 FAX.03-3704-1789

Eメール mokusou@carmel-monastery.jp



カルメル青年黙想会

イエスの心



- 日時 : 2021年5月14日(金)16時～16日(日)16時
場所 : カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)
対象 : 青年男女(16歳～35歳まで)
定員 : 8名
費用 : 一般 10,000円 学生 5,000円
締切 : 2021年5月7日(金)
指導 : カルメル会士

※住所・氏名・性別・年齢・電話番号・所属教会名を記入し、ハガキ・FAX・E-mailの何れかで下記まで。折り返し、こちらよりご連絡させていただきます。

158-0093 世田谷区上野毛2-14-25

カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)

電話 : 03(5706)7355

FAX : 03(3704)1789

E-mail : mokusou@carmel-monastery.jp



宇治カルメル会 黙想会案内 (2021年度)

【一般のための黙想】 中川博道神父

1泊2日 (土曜午後5時～日曜午後4時)

5:30 サルヴェ・レジーナ(修道院)から開始

6/5～6 7/17～18

9/18～19 10/30～31

【聖書深読】(午前10時～午後4時) 中川博道神父

6/26 7/24 9/4

10/2 11/6 12/18

【水曜黙想会】(第3水曜日)(午前10時～午後4時)

5/19 6/16 7/21 9/15 10/20 11/17 12/15

(6/20 7/21 11/17 カルメル宣教修道女会 Sr. ロサ)

他すべて 中川博道神父

【ゴールデンウィーク黙想会】 中川博道神父

5/1(土)午後5時～5/8(土)午前10時 **中止**

参加期間は、全日通しでもどの曜日からでも自由です。

【カルメルの霊性】(午後5時～午後4時) 中川博道神父

幼きテレジア 10/2(土)～3(日)

十字架の聖ヨハネ 12/11(土)～12(日)

【奉獻生活者の黙想】(午後5時～午前9時) 一般可

7/29(木)～8/7(土) 中川博道神父

8月(日時未定)大瀬高司神父

(決まり次第HPでお知らせします)

9/20(月)～29(水) 中川博道神父

11/8(月)～17(水) 中川博道神父

12/27(月)～1/5(水) 中川博道神父

【待降節黙想会】(午後5時～午後4時) 中川博道神父

12/4(土)～5(日)

【祭日のミサに参加するために】

*<聖週間を祈る>

チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30
聖木曜日から復活祭まで通してどの曜日からでも参加可。(講話なし 食事つき)

*<クリスマス>

12/24~25

チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30
(講話なし 食事つき)

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします—

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前9時~午後5時の間にお願い致します。受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願ひ致します。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)
Tel 0774-32-7016 Fax 0774-32-7457
E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp
<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

キリスト教放送局

FEBBC

2021.4~2021.9

2021年春夏 番組案内

AMラジオ放送

AM1566kHz 毎夜9:30~

〈全国放送〉

インターネット放送

www.febcjp.com 〈毎日更新〉

日

夜9:30~

全地よ主を ほめたたえよ

主日礼拝取材番組

- [第1] 日キ教会 高知旭教会
- [第2] 日基教団 石動教会
※4~6月
- [第3] 日基教団 久万教会
- [第4] 日基教団 小岩教会
・7~9月
- [第3] ホーリーネス教団
東京中央教会
- [第4] 日基教団
中標津伝道所
- [第5] 各地の教会

月

[月~金] 夜9:30~

FEBBC TODAY - 今日の聖書・今週の讃美歌 -

恵子の郵便ポスト

夜9:48~ **新** **聴く信仰**
「いのち」をいただく
御言葉黙想
山内十束
物心ツツク・御受難修道会
宣教師の家の司祭

夜9:47~ **幸福宣言**
一主イエスの
山上の説教に聴く
竹森満佐一
日本基督教団元教師

夜9:47~ **嘆きに応える
神の御言**
金田聖治
日キ教会
上田教会牧師

火

水

木

金

土

夜9:30~ **海二と恵子の
ピタミンK(再)**
大竹海二
日本長老教会
中部中会巡回教師
吉崎恵子
夜9:53~ **Kishikoの
ひとりじゃ
ないから**
夜9:04~ **コーヒー
ブレイク・
インタビュー**
インタビュー
吉崎恵子・長倉崇宣
夜10:04~ **交わりのことば**
一祈りの旅路
夜10:31~ **黙想のとき(再)**
主よ、共に宿りませ
安保ふみ江

夜9:37~ **イエスとの
対話の旅**
一現代霊性神学講座
中川博道 カトリック・
カルメル会宇治修道院司祭

[第1] 夜10:25~ **外からの「声」**
—FEBBC HANGOUT!
夜9:37~ **新** **アーンカイブズ**
小林和夫 ホーリーネス
東京聖書学院教会牧師

[第3-4] 夜10:20~ **Meguの
CCM insight**

夜9:47~ **Session**
一イエスのTune
合わせて
早矢仕宗伯
「NCAM-イエスの風」牧師
塩谷達也 ゴスペル
シンガー
長倉崇宣

夜10:14~ **光、イイス
というお方(再)**
ゲオルギイ
松島雄一
日本福音伝道大派/リストス
証教会管轄司祭

夜10:28~ **新** **ふらっと
トーク**
中川信一
長倉崇宣

夜10:14~ **主に向かって
歌おう**
飯靖子
日基教団 豊南坂教会
聖歌隊指揮者・オルガニスト

夜10:14~ **新** **五十嵐
ジュンの
The
Contemporary
Christian Music**
夜10:28~ **FEBBC Sprout!**
長倉崇宣

夜10:14~ **Echo of
Voices**
長倉崇宣

夜10:28~ **御足の跡を**
小池与之祐
日基教団 神の愛
キリスト伝道所牧師

[第2~5] 夜10:27~ **神からの
メッセージ**
グレゴリオ聖歌
橋本周子
聖グレゴリオの家
宗教音楽研究所 所長

夜9:30~ **海二と恵子の
ピタミンK(再)**
大竹海二
日本長老教会
中部中会巡回教師
吉崎恵子
夜9:53~ **Kishikoの
ひとりじゃ
ないから**
夜9:04~ **コーヒー
ブレイク・
インタビュー**
インタビュー
吉崎恵子・長倉崇宣
夜10:04~ **交わりのことば**
一祈りの旅路
夜10:31~ **黙想のとき(再)**
主よ、共に宿りませ
安保ふみ江

夜9:47~ **Session**
一イエスのTune
合わせて
早矢仕宗伯
「NCAM-イエスの風」牧師
塩谷達也 ゴスペル
シンガー
長倉崇宣

夜10:14~ **光、イイス
というお方(再)**
ゲオルギイ
松島雄一
日本福音伝道大派/リストス
証教会管轄司祭

夜10:28~ **新** **ふらっと
トーク**
中川信一
長倉崇宣

夜10:14~ **主に向かって
歌おう**
飯靖子
日基教団 豊南坂教会
聖歌隊指揮者・オルガニスト

夜10:14~ **新** **五十嵐
ジュンの
The
Contemporary
Christian Music**
夜10:28~ **FEBBC Sprout!**
長倉崇宣

夜10:14~ **Echo of
Voices**
長倉崇宣

夜10:28~ **御足の跡を**
小池与之祐
日基教団 神の愛
キリスト伝道所牧師

夜9:37~ **イエスとの
対話の旅**
一現代霊性神学講座
中川博道 カトリック・
カルメル会宇治修道院司祭

[第1] 夜10:25~ **外からの「声」**
—FEBBC HANGOUT!
夜9:37~ **新** **アーンカイブズ**
小林和夫 ホーリーネス
東京聖書学院教会牧師

[第3-4] 夜10:20~ **Meguの
CCM insight**

夜9:47~ **嘆きに応える
神の御言**
金田聖治
日キ教会
上田教会牧師

夜10:14~ **主に向かって
歌おう**
飯靖子
日基教団 豊南坂教会
聖歌隊指揮者・オルガニスト

夜10:14~ **新** **五十嵐
ジュンの
The
Contemporary
Christian Music**
夜10:28~ **FEBBC Sprout!**
長倉崇宣

夜10:14~ **Echo of
Voices**
長倉崇宣

夜10:28~ **御足の跡を**
小池与之祐
日基教団 神の愛
キリスト伝道所牧師

夜9:48~ **新** **聴く信仰**
「いのち」をいただく
御言葉黙想
山内十束
物心ツツク・御受難修道会
宣教師の家の司祭

夜9:47~ **幸福宣言**
一主イエスの
山上の説教に聴く
竹森満佐一
日本基督教団元教師

夜9:47~ **嘆きに応える
神の御言**
金田聖治
日キ教会
上田教会牧師

夜9:30~ **海二と恵子の
ピタミンK(再)**
大竹海二
日本長老教会
中部中会巡回教師
吉崎恵子
夜9:53~ **Kishikoの
ひとりじゃ
ないから**
夜9:04~ **コーヒー
ブレイク・
インタビュー**
インタビュー
吉崎恵子・長倉崇宣
夜10:04~ **交わりのことば**
一祈りの旅路
夜10:31~ **黙想のとき(再)**
主よ、共に宿りませ
安保ふみ江

諸所の企画案内



真命山 霊性交流センター
ノートルダム・ド・ヴィ
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。

真命山 2021年 — 祈りの集いのご案内

「祈りの実り：イエス様と共に、 イエス様のように生きること」

毎月第2木曜日（10:00～15:00）

指導者 フランコ神父

1月14日 柔和な師イエスに習う(マタイ11・29)

2月11日 謙遜な師イエスに習う(マタイ11・29)

3月11日 十字架を背負っているイエス様に従う(ルカ14・27)

4月 8日 神の国でキリストと共に食事の席に着く(ルカ22・30)

5月14日 給仕するイエス様に学ぶ(ルカ22・27)

6月10日 「私があなたがたを愛したように…互いに愛し合いなさい」
(ヨハネ14・34)

7月 8日 祈るイエス様に習う(ルカ11・1)

* * *

9月 9日 「病気や患いを癒された」イエスの模範に従う(マタイ4・24)

10月14日 「福音を宣べ伝えた」イエスの模範に従う(マタイ4・24)

11月11日 ナインの母親を見て、憐れに思ったイエスと共に(ルカ7)

12月 9日 「行って…場所を用意したら、戻って来て、あなたがたを
私のもとに迎える」(ヨハネ14・3)



※個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします(要予約)

申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com

tel:0968-85-3100

講話と祈りのつどい

コロナウイルス感染の広がりにより、
予定しておりました「講話と祈りの集い」の開催を
現在保留にしております。

状況の推移を見守りながら開催の有無を
当会のHPに掲載いたしますので、
そちらをご覧くださいいただければ幸いです。

担当 中山真里

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.co

サダナ瞑想

～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

プログラムの詳細、補充情報などはホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jp/>

申込み受付・・開始日の8日前まで

コース	日時	指導	開催場所	申込み
名古屋入門 B	5/23(日)9:30- 17:00	Fr植栗	聖霊会 八事修道院 ミッションセンター (名古屋市昭和区)	攪上(かくあげ)暁子 050-7108-7410 ngosdn@gmail.com
沖縄 I & アドバンス	5/27(木)17:30- 30(日)16:00 ※通いも可能です	Fr植栗	沖縄・聖クララ修道 院 (与那原町)	佐藤芳樹 080-3188-6573 jonah3295@gmail.com
沖縄 フォローアップ	5/31(月)9:00- 6/1(火)17:00 ※通いも可能です	Fr植栗	同上	同上
入門 C	6/13(日) 9:30-17:00	Fr植栗	★ニコラバレ修道院 1F(四ツ谷)	来間(くるま) 裕美子※ 090-5325-2518 sadhana12378@yahoo. co.jp
名古屋入門 C	6/20(日)9:30- 17:00	Fr植栗	聖霊会 八事修道院 ミッションセンター (名古屋市昭和区)	攪上(かくあげ)暁子 050-7108-7410 ngosdn@gmail.
サダナ I	6/24(木)17:30- 27(日)16:00	Fr植栗	カルメル修道会上野 毛修道院 黙想の家 (世田谷区上野毛)	来間(くるま) 裕美子※
フォローアップ	7/4(日) 9:30-17:00	Fr植栗	★ニコラバレ修道院 1F(四ツ谷)	同上
フォローアップ 新 I	7/11(土) 9:30-17:00	サダナ チーム	★ニコラバレ修道院 16時よりミサ 椅子での黙想です	同上

※申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は、090-5325-2518 (来間) までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子 Tel&Fax : 042-325-7554

★会場が変更になる可能性があります。

●入門 C への参加=入門 A または入門 B を終えていること。

●フォローアップおよびリピーターへの参加=サダナ I を終えていること。



念祷の集い

～沈黙の内に神を求めて～

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室

時間：以下の木曜日

14:00～16:00(講話と念祷)

主催：慈しみ深き会



くのり

指導：九里 彰 神父（カルメル修道会）

中止のお知らせ

2021年度予定

予定しておりました「念祷の集い」は教区よりの指示により、当分の間中止となりました。再開については、再度紙面にてお知らせ致します。

連絡先：篠原 三恵子

Tel:042-473-6287

e-mail: mieko.shinohara@gmail.com

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

『靈性センターニュース』

* 郵送お申込みのご案内 *

ご郵送は、基本的に1月から12月までとなります。
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から12月までとなります。
例：6月申込の場合は、7月号~12月号（但し8月号は休刊）となり、
5冊となります。ご希望の月数×250円程度の献金を下記口座
へお振込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座： 00910-6-333184
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、
郵便番号・住所、電話、Fax等ご明記ください。

また、郵送お申込とは別に、ご献金もお願いしております。

その場合は、「献金」とご記入お願い致します。

何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御藏山 39-12
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457

reisei@carmel-monastery.jp

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

靈性センターニュース掲載の情報も載っています

あとがき . . . つぶやき . . .

先日、4月17日（土）－18日（日）に、イエズス会霊性センター「せせらぎ」が主催した『霊性シンポジウム 「現代に求められる黙想」－イエズス会の霊性、カルメル会の霊性から－』が上石神井「イエズス会無原罪聖母修道院」で行われました。会場の参加者は20名、オンラインでの参加者は150名でした（別紙参照）。

この会に参加させていただき、あらためてカルメル会の霊性とは何か、自分がこの霊性の中でどのように歩んできたのかを思いめぐらす、貴重な機会をいただきました。また、念祷の会ともいわれるカルメル会における黙想の意味と位置づけについて自らの歩みを振り返り、整理し直す時となりました。

個人的には、聖イグナチオのイエズス会の霊性と母聖テレジアによって開かれたカルメル会の霊性を比較して考える時を逸してきたように思いますが、三人のイエズス会の神父様方のお話を伺い、対話を重ねていく中で、カルメル会が大切にしようとしてきた様々なことの意味をあらためて気づかされる連続でした。また、カルメル会の兄弟姉妹の会であるノートルダム・ド・ヴィの片山はるひ先生のお話から、カルメル会の新たな側面を照らしだされる思いでした。

参加された講師陣はじめ皆さんがお互いに啓発しあう時をいただいたという認識を共有できたように思います。そして、「人類史の新しい時代が始まっており、深刻で急激な変革が次第に全世界に広まりつつある」（現代世界憲章4）今。さらにパンデミック後の新しい時代を模索する私たちの中で、お互いの霊性（神との出会いの経験）を分かち合い、照らしあいながら、協力して混迷の中にイエスをみだし生きる必要を痛感するひと時でした。

このような霊性の交流を今後も継続していくことの必要を確認して散会しました。

あらためて、こうした企画を発案し、綿密に計画実行して下さった柳田神父様はじめ霊性センター「せせらぎ」のスタッフの皆さんに感謝を新たにしております。

(fr.中川博道 o.c.d.)

